

---

# 福の神

尚文産商堂

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

福の神

### 【コード】

N3194W

### 【作者名】

尚文産商堂

### 【あらすじ】

帰り道、彼は道端にいる人に呼び止められた。

「もし、その人」

白髪の男性が、ゆっくりと家路を歩いているサラリーマン風のスーツを着こなしている人に話しかける。

周りを見渡すが、この場を歩いているのは彼一人だ。

「俺ですか」

「ほかにおらんだろう。こっちに来てもらえるかな」

その老人は、その人をかなりの力で引き寄せると、顔をまじまじと見つめた。

「あのー、なにかついてますか」

「ああ、おぬしには、福の神がついとる」

「福の神…ですか」

「そう、福の神。よく覚えておきなさい。わしが憑いているということ…」

そして、額の真中に、五芒星を書かれた。

「そして、いつでも付いているということ」

ここで目が覚めてしまった。

布団から起きると、すでに奥さんが料理をこしらえ終えているところだった。

「あら、今日は早いわね」

フライパンをゆすぎ終わると、そのまま机の上に皿を並べた。

「そうそう、おじいちゃんにも」

仏壇のすぐ脇には、奥さんの祖父の遺影が置かれていた。何気なく彼はその遺影を見ると、見覚えがある顔だった。

「あれ、亡くなったのっていつだっけ」

「あなた覚えてない？1年ほど前になるわね」

「一周忌済ましたな」

「ええ。1週間前にね」

奥さんは、お供えをしていた。

「…福の神か」

「ん、どうしたの？」

「いや、なんでもないさ」

奥さんが彼を一瞬だけ見た時、彼は不意に遺影の中の写真が笑顔になつたような感じがした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3194w/>

---

福の神

2011年10月9日15時34分発行